

# 実習科目の概要

実習科目名		単位数 (時間数)	実 習 概 要	
専門分野	基礎看護学	基礎看護学 臨地実習Ⅰ	1 (45)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の療養生活の場である環境(病院・病棟)を理解する。</li> <li>・病院における日常生活と看護活動の実際を見学し、看護実践に向けての動機づけとする。</li> <li>・健康に障害を持つ人を統合的にとらえるために必要な人間関係能力を養うため、対象との関わりや看護の実際を指導者または担当看護師と共に行動し、見学・共同実施することができる。</li> <li>・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。</li> </ul>
		基礎看護学 臨地実習Ⅱ	2(90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に障害を持つ人を統合的にとらえ、問題解決過程を用いて看護を実践する基礎的能力を習得する。</li> <li>・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。</li> </ul>
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論 実習	2(90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅で療養する「家で生活する」人とその家族を理解し、主体性を尊重しながら、生活を豊かにするための援助の実践を学ぶ。</li> <li>・保健・医療・福祉の協働により継続ケアの実際を知り、その重要性を学ぶ。</li> <li>・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。</li> <li>・地域で生活している人々の心身の健康管理について学ぶ。</li> </ul>
	精神看護学	精神看護学 臨地実習	2(90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神に障害を持つ対象の特徴と健康上の問題をとらえ、健全な精神を保持・増進するために必要な看護を実践する基礎的能力を習得する。</li> <li>・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。</li> </ul>
	老年看護学	老年看護学 臨地実習Ⅰ	2(90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者との関わり方を学ぶ。</li> <li>・様々な健康レベルにある高齢者の生活の場を理解する。</li> <li>・高齢者の日常生活援助を理解する。</li> <li>・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。</li> </ul>
		老年看護学 臨地実習Ⅱ	2(90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期にある対象とその家族の特徴と健康上の問題をとらえ、その人がよりよく生きられるように、看護を実践する基礎的能力を習得する。</li> <li>・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。</li> </ul>
	成人看護学	成人看護学 臨地実習Ⅰ	2(90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康状態が急激に変化する状況にある対象・そこからの回復状態にある対象のとその家族を理解し、健康の回復・増進・自立に向けての援助の実践を学ぶ。</li> <li>・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。</li> </ul>
		成人看護学 臨地実習Ⅱ	2(90)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性的な健康障害のある対象とその家族を理解し、セルフケア行動の維持・向上を図り、予防・自立に向けての援助の実践を学ぶ。</li> <li>・人間ドッグにて健康の維持増進や指導法について学ぶ。</li> </ul>

			・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。
	成人看護学 臨地実習Ⅲ	2(90)	・終末を迎えようとする対象とその家族を理解し、その人らしく人生を全うできるよう、死に直面している対象とその家族に対して身体的・心理的な苦痛緩和のための援助を学ぶ。 ・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。

実習科目名		単位数 (時間数)	実習概要
専門分野	小児看護学	保育園実習	(30) ・健康な子どもに接し保育の実際を見学し実施することにより、子どもの成長発達と保育の基本を学ぶ。 ・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。
		外来・病棟実習	(44) ・家庭療養の指導を中心とした、小児科外来の看護の特殊性を学ぶ。 ・健康障害を持つ子どもと両親、または保護者に対する看護について学ぶ。 ・入院療養を中心とした、小児科病棟の看護の特殊性を学ぶ。 ・生活介護を必要とする通所児童の支援を学ぶ。 ・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。
		福祉施設実習	(16) ・保健・医療・福祉のサービスの現状を知り、社会資源の活用と豊かな生活との関連について学ぶ。 ・障害をもって生活する対象を包括的に捉える力を養い、自立生活への助長を図る施設を理解することができる。 ・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。
	母性看護学	母性看護学 臨地実習	2(90) ・妊婦・産婦・褥婦及び新生児の特徴を理解し、対象者及び家族の持つニーズに応じた看護が実践できる基本的能力を養う。 ・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。
	統合	看護の統合と実践実習	2(90) ・臨床での看護方式を実際に体験することにより、看護の判断能力・実践能力・応用能力を養う。 ・臨床実践に近い形で看護を体験し、看護職としての役割を明確にする。(夜間実習・複数の受け持ちなど) ・生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。

## 臨地実習時間と時期

	実習区分	単位	場所	内容	時間	日数	時期
専門分野	基礎看護学臨地実習Ⅰ (45)	1	病院	オリエンテーション 病院・病棟見学 まとめ	7 35 3	1 5 0.5	1年次後期
	基礎看護学臨地実習Ⅱ (90)		病院	オリエンテーション 病棟実習 まとめ	3 84 3	0.5 12 0.5	2年次後期
	精神看護学臨地実習 (90)		病院	オリエンテーション 病棟実習 まとめ	3 84 3	0.5 12 0.5	2年次後期
	地域・在宅看護論臨地実習 (90)		ステーション 連携室	オリエンテーション 訪問看護ステーション 地域連携室 まとめ	3 70 14 3	0.5 10 2 0.5	3年次
	老年看護学臨地実習Ⅰ (90)		施設	オリエンテーション 介護老人保健施設 特別養護老人ホーム	3 42 42	0.5 6 6	2年次後期
	老年看護学臨地実習Ⅱ (90)		病院	オリエンテーション 病棟実習 まとめ	3 84 3	0.5 12 0.5	3年次
	成人看護学臨地実習Ⅰ (90)		病院	オリエンテーション 病棟実習 まとめ	3 84 3	0.5 12 0.5	3年次
	成人看護学臨地実習Ⅱ (90)		病院	オリエンテーション 病棟実習 まとめ	3 84 3	0.5 12 0.5	3年次
	成人看護学臨地実習Ⅲ (90)		病院	オリエンテーション 病棟実習 まとめ	3 84 3	0.5 12 0.5	3年次
	小児看護学臨地実習 (90)		保育園 病院 施設	オリエンテーション 保育園 病棟・外来実習 発達障害児施設 重度障害児施設 まとめ	3 28 28 14 14 3	0.5 4 4 2 2 0.5	3年次
	母性看護学臨地実習 (90)		病院	オリエンテーション 病棟実習 まとめ	3 84 3	0.5 12 0.5	3年次
	看護の統合と実践実習 (90)		病院	オリエンテーション 病棟実習 まとめ	3 84 3	0.5 12 0.5	3年次

## 基礎看護学臨地実習 I

- 目的： 1. 対象の療養生活の場である環境を理解し、病院における日常生活と看護活動の実際を知り、看護実践にむけての動機づけとする。
2. 対象との関わりや看護の実際を見学・共同実施でき、倫理的行為が理解できる。

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
1. 病棟の構造と設備が理解できる。	1) 病棟の構造、設備を知る。 (1) ナースステーション、処置室、リネン庫、倉庫、物品庫、洗濯室、トイレ、洗面所、浴室、面談室などの位置関係やその利用について考える。 2) 対象および医療従事者に対する安全への配慮を知る。 (1) 事故防止対策、院内感染防止対策、災害対策、ゴミ処理 3) 病棟のなかでの病室の位置関係を知る。 (1) 病棟の機能性や対象の状態による病室の位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が病棟の構造や設備を観察し病棟の特徴を知りその後の実習につなげる。</li> <li>・ 疑問点があれば指導者より説明を受ける。</li> </ul>
2. 対象の療養生活の場としての生活環境が理解できる。	1) 病棟や病室の環境が、対象の日常生活とどのような関わりを持っているかを一人の対象を通して観察し考察する。 (観察の視点) (1) 採光、色彩、音、室温、湿度、臭い、ベッドの位置およびその機能、病棟での病室の位置関係、ベッドの間隔、カーテン、病室の広さ、床頭台の位置、入口や窓の位置、ナースコールの位置 2) 対象の生活空間としての病室を観察する。 (1) 床頭台の上の物品の配置やその内容 (2) ベッド上およびベッド周りの物品とその配置 3) 対象がどのような日常生活を送っているか観察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院生活(環境)の望ましい状態を事前に復習しておく。</li> <li>・ ベッドサイドにいく機会をつくり対象の生活空間を観察し看護の視点につなげる。</li> <li>・ 物品の配置などから入院生活の工夫に気づく。</li> </ul>
3. 対象に関心を寄せて接することができる。	1) 対象を疾患名にとらわれずに人間としてありのままとらえる。 (1) 環境整備時 (2) バイタルサイン測定の時 (3) 日常生活援助の時 (4) 対象と看護者の関わりから (5) 対象の反応 などからとらえる。 2) コミュニケーションの技法を活用し、対象とのコミュニケーションをとる。 (1) 看護者と対象のコミュニケーションを観察する。 (2) 意図的コミュニケーションをとる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な関わりの方法を復習しておく。そのうえで、対象の状況に配慮しながらかかわるように留意する。</li> <li>・ 指導者や担当看護師と共に対象のところにいく。</li> <li>・ 目の前に起きている出来事をありのままにとらえることにより、何故そうなっているのかを考えることができるようにする。</li> </ul>

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
<p>4. 対象に実施される日常生活援助の必要性を理解できる。</p>	<p>1) 対象にどのような日常生活援助が実施されているか理解する。  2) どのような方法で実施されているか理解する。  3) 日常生活援助を見学・共同実施する際、対象の反応を観察する。  学生が一人で実施できる項目  (見学を終えてから)  (1) 環境整備  (2) ベッドメイキング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象に対して行われている看護実践の場面を見学する。(患者の反応を観察することを含む)</li> <li>・ 看護実践がさまざまな情報を基に行われていることを日常生活援助の見学・共同実施をとおして考える。</li> <li>・ 実施される日常生活援助は、事前に基本的な必要物品・実施手順・注意事項・根拠を明確にしておく。</li> <li>・ 基本的な援助方法からどのように変化しているか考える。</li> <li>・ 何故対象にその日常生活援助が必要か考える。</li> <li>・ 何故この方法で実施されるのか考える。</li> <li>・ 受け持ち患者に対する日常生活援助を行う場合は、見学→共同実施の段階をふみ、指導を受けながら行う(主ではできない)。</li> <li>・ 日常生活援助を実施した際、安全安楽の視点を含めて、援助が適切であったか、指導者の助言を受けて評価する。また、その評価内容を翌日の実施に反映させる。</li> </ul>
<p>5. 対象のバイタルサイン測定と状態観察ができる。</p>	<p>1) 対象に必要なバイタルサインの測定を正しく実施する。  (1) 体温・呼吸・脈拍・血圧・その他必要なもの  2) 対象の状態の観察を行う。  (1) フィジカルアセスメント(特に胸部・腹部の聴診、触診など)  3) 実施は安全・安楽に留意して行う。  4) 実施したこと観察したことの報告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象の疾患の基本的な学習をしておく。</li> <li>・ 一般的な観察項目はどのようなものか事前学習しておく。</li> <li>・ バイタルサイン測定時、どのように一般状態の観察、症状の観察を行うとよいか考え行う。</li> <li>・ バイタルサイン測定は見学→共同実施→実施の段階をふみ、指導を受けながら行う。</li> <li>・ フィジカルアセスメントは看護師と共に行う。</li> <li>・ 報告前には内容を整理する。</li> </ul>

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
<p>6. 看護実践が看護倫理に基づいた行為であることが理解できる。</p>	<p>1) 看護実践は全て倫理に基づいて行われることを対象との関わりや援助の見学・共同実施をとおして理解する。</p> <p>(1) 環境整備</p> <p>(2) バイタルサイン測定</p> <p>(3) 日常生活援助                      など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護実践にもとめられる倫理に関しては事前学習で復習しておく。</li> <li>※ カンファレンスは毎日30分間実施する。</li> <li>※ その日の実習終了までに指導者に対象の翌日の予定を確認し、実習の計画や事前学習につなげる。</li> </ul>

## 基礎看護学臨地実習 II

目的：健康に障害をもつ人を統合的にとらえ、問題解決過程を用いて看護を実践する基礎的能力を習得する。

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
7. 看護に必要な人間関係能力を養い、対象を統合的にとらえることの重要性を学ぶ。	5) 対象に関心を寄せて接する。 6) 対象に起きている事柄を、ありのままにとらえる。 7) 対象との関わりを基にし、実習中の人間関係のプロセスを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受け持ち患者を1名設定し、その対象との対人関係をとらえて学習する。</li> </ul>
8. 対象の看護上の問題をアセスメントできる。	4) 対象や、その対象を取り巻く現象を、ありのままに捉える。 5) ありのままに捉えた事柄を、既に学んだ知識を活用してアセスメントする。 (1) 発達段階の中でどのような特徴があるか (2) 対象の身体に何が起きているか (人に関する事・健康障害に関する事・生活に関わる事) (3) (2)がその人の生活にどのような影響を与えているか (4) その人が現在の状況をどのように捉えているか (5) (1)～(4)がどのように関わり合っているのかをアセスメントする。 6) 2) を基にして、対象の「よりよい生活」を妨げているものが何であるか全体像に表す。 7) 1)～3)より看護問題をクラスタリングし明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目の前に起きている出来事をありのままに観て、対象を統合的に捉える。疾患のみにとらわれず、「病気を持った人」という看護者としての視点を養う。</li> <li>・ 受け持ち患者をとらえて看護のプロセスを理解する。</li> <li>・ その人に関心を寄せ、様々な側面からその人を捉える。</li> <li>・ 基本情報、健康障害の状況、健康障害による日常生活の変化からその人のおかれている状況を把握する。</li> <li>・ 共感的理解により、その人の認識に近づいてアセスメント能力を高める。</li> <li>・ 実習中その人との関わりを振り返る。</li> </ul>
9. アセスメントした問題に対し、達成可能と思われる目標を設定できる。	1) 受け持ち期間中の看護目標を設定する。 2) 解決目標は、評価しやすいように具体的な表現にする。 3) 目標達成を妨げている事柄から、それが解決された状態を予測する。	
10. 目標達成のための援助方法を計画できる。	1) 目標達成のための解決策をあげる。 2) 解決策は、他の人にも理解できるよう具体的に表現する。 3) 援助の方法は、観察・ケア・教育の観点から計画する。	
11. 計画した看護を対象の安全安楽を考慮して実施できる。	1) 実施は、原則として計画した方法・手順に従って実施する。 2) 実施前後のその人の反応を捉え、その意味を考えながら必要な配慮を行う。 3) 実施後は、観察したことや反応も含め報告する。	

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
<p>12. 実施した看護を振り返り、評価できる。</p> <p>13. 倫理的態度をとることができる。</p>	<p>4) 個々の援助の実際をその都度振り返り、実施計画や実施方法が適切であったかを評価する。</p> <p>(1) その時その人への援助方法の選択は適切であったか</p> <p>(2) 実施上のその人の反応を捉え、必要な配慮ができたか</p> <p>(3) 計画した予定日に実施できたか</p> <p>(4) 期待する結果は得られたか</p> <p>5) 目標達成状況により、看護過程の妥当性を評価する。</p> <p>1) 援助の必要性を説明し、同意を得る。</p> <p>2) 対象の尊厳を尊重し、プライバシーを守る。</p> <p>3) 礼節をわきまえた態度をとる。</p>	<p>※ 受持つ対象には緊急を要することのない人、コミュニケーションが著しく困難でない人、かつ日常生活援助の必要な人を設定していただく。</p>



# 地域・在宅看護論臨地実習

## (訪問看護ステーション)

目的:在宅で生活している療養者とその看護の実際を知る。

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
1. 訪問看護ステーションの役割・機能が理解できる。	1) ステーションの特徴や地域の特色などを知り、訪問看護の機能・役割を知る。 (1) 地域の特性とステーションの特性や役割 (2) 介護保険制度と医療保険制度、訪問看護制度 (3) カルテの見方 ・居宅サービス計画書①② ・週間サービス計画書 ・居宅サービス利用・計画 ・訪問看護指示書(特別訪問看護指示書) ・訪問看護計画書・訪問看護報告書 (4) 対象者(家族も含む)の特徴 (5) 訪問看護師の倫理と対象者への権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院での療養生活と在宅での療養生活の違いを考える。</li> <li>・ 各々、利用方法が多様なプロセスであることを理解する。</li> <li>・ それぞれの療養者がどのような経緯で社会資源を利用しているのかを知る。</li> <li>・ 制度についての知識レベルについては校内実習でおさえる。</li> </ul>
2. 在宅療養者とその家族がともに生活する場であることが理解できる。	1) 療養者とその家族が在宅で療養する意味を考える。 (1) 療養者とその家族がともに生活するための支援 ・療養者とその家族のライフサイクル・役割 ・療養者とその家族のライフステージの影響 ・療養者とその家族の日常生活に対するニーズ ・その家族の介護力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 療養者のプライベートな空間に訪問するため、学生としての態度・行動に留意する。</li> <li>・ 訪問に同行し、様々な生活環境・療養生活を知り、訪問看護の実際を学ぶ。</li> <li>・ 家庭内の資源を利用し生活の知恵を活用し援助が行われているか。</li> </ul>
3. 在宅療養者とその家族の意思を尊重した援助の必要性が理解できる。	1) 療養者の生活史を尊重し意思決定を支えることの必要性を知る。 (1) 療養者やその家族の生活習慣・自己決定を尊重した援助方法を知る。 (2) 療養者やその家族に行われている指導・助言について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カルテからの情報や同行訪問時の訪問看護師のかかわりを通して看護師としての責任のある行動を学ぶ。</li> <li>・ 社会人としての倫理観を持った態度ができる。              身だしなみ              プライバシー保護              個人情報保護              (守秘義務)</li> </ul>
4. 社会資源を活用することの必要性が理解できる。	1) 保健・医療・福祉の社会資源を活用し生活を支える看護を学ぶ。 (1) 療養者の残存機能を活かし自立した生活が行えるための必要な社会資源について考える (2) 対象者が安全で安心した生活を送るために社会の動きを知り、地域包括システムの在り方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護負担軽減のための工夫について考える。</li> </ul>

<p>5. 多職種・多機関との連携の重要性が理解できる。</p>	<p>1) 保健・医療・福祉チームの連携の方法を知る。  (1) 退院支援・退院調整の実際  (2) 多職種・多機関との情報交換の方法</p>	<p>・ 退院前訪問・退院前合同カンファレンス・サービス担当者会議等に参加し訪問看護の役割を考え、他職種・多機関との連携の重要性を考える。  ・</p>
----------------------------------	---	--

# 地域・在宅看護論臨地実習

## (地域連携室)

- 目的:1.保健・医療・福祉の協働により、地域に戻って生活を継続できる支援について学ぶ。  
2.社会資源の活用と豊かな生活との関連について学ぶ。

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
1. 地域医療を支える病院の役割や機能が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病院内での地域連携室の特性や役割を知る。</li> <li>2) 地域医療の現状や課題を知る。</li> <li>3) 地域医療を支える専門職としてのあり方を知る。</li> <li>4) 地域包括システムのあり方を知る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携室の病院内での位置づけ、役割について学ぶ。</li> <li>・ 在宅看護が提供される場の広がりについて学ぶ。</li> <li>・ 地域包括システムの構築</li> <li>・ 退院支援の実際について学ぶ。</li> <li>・ 地域連携室の病院での位置づけや役割についての知識レベルについて校内実習でおさえる。</li> <li>・ 入院中の患者とその家族の思い、気がかりなことなど、相談支援の実際を通して学ぶ。</li> </ul>
2. 入院患者に対して退院支援及び退院調整のプロセスが理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入院から在宅療養への移行に対する支援について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 退院支援のプロセス</li> <li>(2) 退院調整の実際</li> <li>(3) 療養者とその家族の意思決定支援の実際</li> </ol> </li> <li>2) 入退院時における多職種・多機関との連携の実際について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 他の医療機関との連携</li> <li>(2) 他施設との連携</li> <li>(3) 訪問看護ステーションとの連携</li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多職種との連絡の方法・相談等、どのように行われているか実際を通して学ぶ。</li> <li>・ 担当者会議・退院前合同カンファレンスに参加し実際を学ぶ。</li> </ul>
3. 退院支援にかかわる多職種との連携の必要債が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と連携し、支援することの重要性を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 病院側の退院支援にかかわるスタッフ</li> <li>(2) 地域の支援スタッフ (インフォーマルなサービスも含む)</li> <li>(3) 地域とのネットワークづくり</li> </ol> </li> <li>2) 病院と地域との連携を行うために行う会議のあり方について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 退院前合同カンファレンス</li> <li>(2) サービス担当者会議</li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多職種との連絡の方法・相談等、どのように行われているか実際を通して学ぶ。</li> <li>・ 担当者会議・退院前合同カンファレンスに参加し実際を学ぶ。</li> </ul>

## 地域・在宅看護論臨地実習(高等学校保健室) 1日

- 目的:1.地域の生徒たちの安全な学校生活がどのように確保されているのかを学ぶ。  
2.学校内での安全な環境と健康の確保がどのように確保されているのかを学ぶ。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
1. 学校内での保健室の位置づけについて理解できる。	1) 学校内での保健室の特性や役割を知る。 2) 学校内での保健室の現状や課題を知る。	講義形式での説明を受ける。 ・ 学校保健法に基づく保健室の位置づけなどの説明 ・ 各担任が行っている生活・健康指導等の説明
2. 学校内での養護教員と各教員との連携と役割を知る。	1) 学校内での養護教員の役割を知る。 2) 学校内で各教員との連携方法を知る。 3) 学校カウンセラーとの連携方法を知る	・ 学校カウンセラーが行って活動についての説明
3. 学校生活の中で安全な環境の中でどのように健康が確保されているかが理解できる。	1) 学校生活での健康管理について (1) 疾病予防についての実際 定期的な健康診査の実施 学校感染症の取り扱い・予防対策 (第1種・第2種・第3種等) その他の感染症の取り扱い 健康相談の実施方法 (2) 学校における事故、加害行為、災害等についての対処方法について	・ 健康診査の実施時期・方法について説明を受ける。 ・ 検査結果からの健康相談 ・ 感染対策と出席停止の条件について説明を受ける。 ・ 感染予防対策の実際 ・ 事故の処理方法 ・ 災害対策などの管理方法の説明を受ける。
4. 生徒の日常生活がどのように学校生活に影響されているかを知る。	1) 各生徒の保護者との連携について (1) 生徒の日常生活について (2) 生徒自身の健康管理	・ 保護者との連携の方法についての事例などを照会してもらいながらの説明を受ける。
5. 地域の関係機関との連携について知る。	1) 地域での関係機関との連携 (1) 地域を管轄する警察署 (2) 地域の安全を確保するための活動を行う団体 (3) その他の関係機関 (4) 当該地域の住民 等	・ 地域との連携方法や地域で生徒の安全を確保するための地域での関わりを説明を受ける。  ※養護教員や他の健康対策の教員の動きを見学実習し、学校が行っている健康対策を考える。

## 地域・在宅看護論臨地実習(企業の健康管理室(産業保健師)) 1日

- 目的： 1. 企業で働いている従業員の健康管理・維持・促進に関する管理がどのようにされているのかを学ぶ。  
 2. 企業で働いている従業員の精神衛生上の管理がどのようにされているのかを学ぶ。  
 3. 企業で働いている従業員の健康で安全な職場の在り方について学ぶ。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
1. 健康管理室の位置づけについて理解できる。	1) 社内での健康管理室の特性や役割を知る。 2) 学校内での健康管理室の現状や課題を知る。	講義形式での説明を受ける。 ・ 労働基準法・労働安全衛生法に基づく企業内での健康管理室の位置づけなどの説明
2. 2企業での産業保健師と各部署との連携方法が理解できる。	1) 社内での産業保健師の業務内容から役割を知る。 2) 社内での産業保健師と各部署の従業員へのかかわり方を知る。 健康保険組合・産業医・衛生管理者 労働衛生コンサルタント・人事担当者	・ 産業保健師の業務内容・役割について ・ 労災保険・雇用保険による従業員の保証 ・ 各部署との連携方法
3. 従業員の健康管理がどのように行われているのか理解できる。	1) 健康管理(労働安全衛生法に基く) (1) 疾病予防についての実際 一般健康診査・特殊健康診査の実施 歯科医師による検診実施 じん肺検診実施 等 (2) 精神衛生に関する検査の実施 ストレスチェック (3) 感染症の取り扱い インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症 等 (4) 健康相談・保健指導の実施 2) 職場での事故・加害行為・災害等の対処方法について	・ 健康診査の実施時期・方法について説明を受ける。 ・ 検査結果からの健康相談 ・ 長時間労働者・休職者への対応 ・ 精神衛生に対する対応 ・ 感染対策と就業停止・在宅ワークの条件等の説明を受ける。 ・ 労災保険法に基づく事故の処理方法 ・ 災害対策などの管理方法の説明を受ける。
4. 従業員の日常生活がどのように労働に影響しているのかを知る。	1) 従業員の日常生活と健康管理について (1) 通勤時間・就業時間 (2) 従業員自身の健康管理	・ 従業員の家族との連携の方法についての事例などを照会してもらいながらの説明を受ける。
5. 企業と地域の関係機関との連携について知る。	1) 地域の関係機関と企業の連携について (1) 地域を管轄する警察署 (2) 地域の安全を確保するための活動を行う団体 (3) 当該地域の住民 等	・ 地域との連携や地域で従業員の安全を確保するための地域での関わり等の説明を受ける。  ※産業保健師や他の健康対策の部署の動きを見学実習し、企業が行っている健康対策を考える。

## 精神看護学臨地実習

- 目的：1. 精神に障害を持つ患者及び家族を包括的に理解し、治療的かかわりをとおして健全な精神を保持・増進するための必要な看護実践能力を養う。
2. 生命の尊厳を譲り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
<p>1. 精神に障害がある人の身体的・精神的・社会的問題が理解できる。</p>	<p>1) 病棟の特徴を理解し、対象の生活の場を知る。</p> <p>2) 基本的接近技術をもちいて対象とコミュニケーションを図る。</p> <p>3) 対象の、ありのままの状況を関わりの中からとらえる。</p> <p>4) 得た情報をもとに、アセスメントして問題点を明確にする。</p> <p>5) 日常生活にどのような影響があるのかアセスメントをする。</p> <p>6) 看護過程を用いて対象を理解し看護実践を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その時の対象の表情、態度、言葉をありのままに受け取る。</li> <li>・ その時の対象の言動のもつ意味を考える。</li> <li>・ プロセスレコードの中から対人関係がどのように展開したかを振り返る。</li> <li>・ 対人関係に行き詰った時にプロセスレコードにて自己を振り返る。 (上記のどちらかで実習中に1例記入し振り返る)</li> </ul>
<p>2. 精神に障害をもつ人の、その人らしさを尊重した日常生活支援ができる。</p>	<p>1) 対象の自立に向け、その人らしさを尊重した日常生活行動への援助をする。</p> <p>2) 対象に合ったコミュニケーション環境を選択する。</p> <p>3) 対象の状態に合わせた、治療的コミュニケーション技法を活用する。</p> <p>4) 対象のなかに残されている健康な心身に働きかけることに気づく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象にとって適切な距離をとりながら接する。</li> <li>・ 疾患や症状レベルのみにとらわれず、症状によって、日常生活にどのような影響があるか考える。</li> <li>・ 人間は相手を理解するときに、常に自分のものさし(価値観・感情)に基づいているのだということを認識する。</li> </ul>
<p>3. 精神に健康問題や障害を持つ人が安心して地域社会で生活するために必要な援助ができる。</p>	<p>1) 社会復帰に必要な法律・制度・地域保健福祉施策</p> <p>2) 地域サポートシステムに関連する施設とその機能や職種、就労意欲・能力など</p> <p>3) 服薬管理</p> <p>4) 金銭管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初日のカンファレンスは、第一印象、対象との関わりで困っていること、また実習をスタートするにあたっての疑問点等について話し合う。</li> <li>・ 4日目のカンファレンスでは、看護上の問題点を明確にし、看護の方向性を確認する。</li> <li>・ 受け持ち患者の社会復帰についてのカンファレンスを行い、なぜ退院できないのか・その要因は何か・何を改善すればいいのか・その為にはどのような方法があるか。</li> </ul>

## 老年看護学臨地実習 I

目的: 老年期にある対象とその家族の特徴、生活上の問題をとらえ、その人がよりよく地域での暮らしを営むために必要な看護を学ぶ

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
1. 老年期にある人の特徴が理解できる。	1) 加齢に伴う身体的変化を知る。 (1) 感覚機能の低下 (2) 健康レベルの個人差  2) 加齢に伴う心理社会的変化を知る。 (1) 流動性知能・結晶性知能の変化 (2) 経済力の変化 (3) 家族内・社会での役割変化 (4) 高齢者の創造性(生きがい・はりあいとなるもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視力低下、難聴などの感覚機能の低下が日常生活にどのように影響しているか考える。</li> <li>・ 高齢者の特徴を理解する(生活史、生活習慣、家族背景、家族や社会での役割、経済的背景)</li> <li>・ 身体的側面と心理社会的側面は互いに密接な関係にあることを理解する。</li> </ul>
2. 様々な健康レベルにある高齢者の生活の場が理解できる。	1) 高齢者の生活について考える。 2) 各施設の特徴を知り、生活の場としての違いを考える。 3) 高齢者の健康レベルによって、生活の場が変更されることを理解する。 4) 地域で生活する高齢者とその家族にとって、デイケア・デイサービスの機能と役割について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅の4施設にて、3日間ずつ実習を行う。</li> <li>・ 受け持ちを持たず、担当者について看護援助を見学・共同実施を行う。</li> <li>・ 実際にコミュニケーションをとり、高齢者の理解を深める。</li> <li>・ 高齢者の施設内での日常生活について考える</li> </ul>
3. 高齢者の日常生活援助の実際が理解できる。	1) 高齢者の日常生活への援助方法を見学する。 (1) 健康障害の程度に応じた日常生活援助方法(食事・排泄・清潔・活動・睡眠・私物管理・服薬管理) (2) 日常生活の拡大と自立への援助 (3) 家族・キーパーソンとの関わり (4) 施設ケアにおける他職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その人に行われている援助を見学・共同実施する中で、高齢者の健康レベルに応じた援助方法を考える。</li> <li>・ 援助の実際を見学することで、その人らしい生活について考える。</li> <li>・ カンファレンスは毎日30分実施する。テーマはグループで話し合い決定する。</li> <li>・ 実習終了後、学内でグループワークを実施し、各施設での高齢者の生活・特徴をまとめる。</li> </ul>

## 老年看護学臨地実習Ⅱ

目的: 老年期にある対象とその家族の特徴、生活上の問題をとらえ、その人がよりよく暮らす看護を実践する基本的能力を養う。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
<p>1. 老年期にある人の健康上の問題が理解できる。</p>	<p>1) 対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。            (1) 加齢や健康障害による身体機能の変化            (2) その変化の状態がどの時期なのか            (3) 身体的・精神的症状とそれに伴う苦痛            (4) 身体の変化や症状に対する対象(家族)の受け止め方            (5) 基本的ニーズの充足状態            2) 身体の変化や症状が及ぼす対象(家族)への影響が理解できる。</p>	<p>4 日間の学内実習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意図的な情報収集の理解</li> <li>・その人を知るための情報(生活歴・介護度、家族背景 介護サービスの利用状況など)</li> <li>・健康障害を理解するために必要な情報(加齢に伴う身体的特徴をふまえて考え、二次的障害を予防するための看護を考える)</li> <li>・生活をみる視点の確認</li> <li>・知識の確認</li> </ul>
<p>2. 老年期の特徴をふまえ、看護の展開ができ看護実践ができる。</p>	<p>1) 看護の展開方法を理解し、看護実践を行う            (1) 回復期にある高齢者の自立した生活を考える            (2) 複数の疾患を抱える高齢者の症状が日常生活へどう影響しているか考える            (3) 高齢者の健康障害には個人差が大きいことを理解する            (4) 麻痺や持続する症状、認知機能の低下がありながらも、その人らしい生活への支援をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年期の特徴・成長発達段階に関しては、老年看護学臨地実習Ⅰでの学びを参考にする。</li> <li>・ 家族背景、キーパーソンの存在について考える</li> <li>・ 一人の患者を受け持ち、看護を展開しながら看護を実践する</li> <li>・ 老年期は、複数の疾患を抱えていること、様々な症状をコントロールしながら、生活していることを考える</li> </ul>
<p>3. 多職種との連携やその人とその家族の意思決定を支援し、継続看護の必要性が理解できる。</p>	<p>1) 保健・医療・福祉チームとの連携・調整            2) 退院後の生活を踏まえた日常生活の支援            3) 対象とその家族の意思決定への支援のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年期は防衛力・予備力・適応力・回復力が低下していることをふまえながら、回復していく過程について考える</li> <li>・ 老年看護学臨地実習Ⅰを参考にする</li> <li>・ 他職種とのカンファレンスを見学し、看護師の役割を考える</li> <li>・ 学生カンファレンスは毎日30分実施する</li> </ul>



## 成人看護学臨地実習 I

目的：健康状態が急激に変化する状況にある成人（老年）期の対象と家族、回復状態にある対象と家族を理解し、健康の回復・自立にむけての看護を実践できる能力を養う。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
1. 健康状態が急激に変化する状況にある対象の身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。	1) 対象の身体的特徴が理解できる。 (1) 疾患の発生のメカニズムと具体的な症状 (2) 治療（手術）による身体的影響 (3) 治療（手術）侵襲による生体反応 (4) 治療（手術）による形態・機能の変化 (5) 痛みなどの苦痛 2) 対象の精神的・社会的な特徴が理解できる。 (1) 対象の発達段階と課題 (2) 急激に変化する状況にある対象と家族の心理状況 (3) 一時的・永久的なボディイメージの変容	(学内実習 4 日間) グループ学習 ・ 周手術期における看護 ・ 生体侵襲(ムーアの分類) ・ 疼痛コントロールの意義 ・ 早期離床の意義 ・ スタンダードケアプランの作成 ・ 演習：術直後の観察と報告 (病棟実習 8 日間) ・ 周手術期もしくは健康状態の急激な変化にある成人（老年）期 65 歳以上の患者を受け持つもよい。 ・ 患者設定用紙を実習前日に渡し、事前学習をし、解釈・分析を記載しておく。
2. 対象とその家族の意思決定の支援が理解できる。	1) 対象の意思に基づく自己決定に対する支援が理解できる。 (1) インフォームドコンセント (2) インフォームドコンセントにおける看護 (3) 対象と家族の治療（手術）に対する受け止め方	・ 術前オリエンテーションの見学を行い、個別性を踏まえた内容を理解する。 ・ 治療（手術）前日の身体準備を看護師と共に実施する。 ・ 可能であれば、治療（手術）室に入室し見学実習をする。
3. 対象がよりよい状態で治療が受けられ、健康の回復、合併症予防のために必要な看護が理解できる。	1) 治療前（手術前）の心身の状態を整えるための援助が理解できる。 (1) 術前オリエンテーション・術前訓練 (2) 術前検査による術後合併症の予測と予防 (3) 治療（手術）前の身体準備 (4) 手術室への移送と申し送り 2) 安全・安楽に治療（手術）が受けられるための援助が理解できる。 (1) 手術操作・麻酔の種類 (2) 治療（手術）中の合併症の予測と予防 3) 治療（手術）後の異常の早期発見や術後合併症にむけたアセスメントができる。 (1) 異常の早期発見のための観察と報告 (2) 治療（手術）後合併症のための観察と予測と予防 (3) 治療（手術）後の苦痛を緩和するための援助	・ 手術内容、術中の経過は麻酔記録、医師記録、手術看護記録から情報収集する。 ・ 実習 3 日目に看護問題と看護の方向性をカンファレンスにて検討する。 ・ 看護問題の明確化後に看護計画立案し、実施、評価をしていく。
4. 日常生活の自立に向けた回復過程の支援が理解できる。	1) 治療（手術）後の回復促進への援助が実施できる。 (1) 早期離床の意義と目的の理解 (2) 対象に応じた離床の援助 (3) 基本的ニーズの充足への援助 (4) 回復意欲への動機づけ (5) 回復過程に応じた日常生活拡大への援助 (6) 対象と家族に対する不安緩和への援助	・ 毎日 30 分のカンファレンスを行い、グループでの学びの共有をする。 ・ 実習 5 日目にテーマカンファレンスを行い、看護につなげていく。(テーマ

		は学生が考える)
	実 習 内 容	実習方法・留意事項
5. 社会復帰に向けての支援が理解できる。	1) 社会生活適応に向けての支援が理解できる。 (1) 退院後の生活の情報収集 (2) 社会資源の提供 (3) 保健・医療・福祉チームとの連携調整 (4) 対象・家族への生活指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チームカンファレンスに参加し、患者に合わせた社会資源・諸サービスの調整・活用方法について理解する。</li> <li>・ 実習最終日に最終評価をおこなう。</li> </ul>

## 成人看護学臨地実習Ⅱ

目的：慢性的な健康障害のある成人期の対象とその家族を理解し、健康の維持・向上のためのセルフマネジメントを推進するための看護を実践できる能力を養う。

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
1. 慢性的な健康障害のある対象と家族の身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。	1) 対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 (1) 病態・症状の理解（疾病の発病・経過・現在の病状・予後） (2) 長期療養に伴う対象の疾病への受容過程 (3) 対象と家族の疾病に対する認識 (4) 回復への期待 (5) 対象の発達段階と課題 2) 対象を取り巻く家族に関心を寄せて家族へ及ぼす影響を理解できる。 (1) 家族の思い (2) 家族の理解	(学内実習 4 日間) グループ学習 ・ 慢性期の看護の特徴 ・ 慢性疾患の病態・症状・検査・治療・看護 ・ 慢性的な健康障害のある事例を用いてのアセスメントの視点と看護問題の考え方 ・ 患者への教育・指導法について
2. 疾病をコントロールし、悪化させないための支援が理解できる。	1) 疾病をコントロールし悪化させないための支援が理解できる。 (1) 症状緩和への援助 (2) 長期療養に伴う苦痛の緩和 (3) 検査・治療に伴う援助 (4) 対象及び家族への精神的支援	(病棟実習 8 日間) ・ 透析病棟実習 6 日間 ・ 成人期の対象 18 歳以上 65 歳未満の患者を受け持つ
3. セルフケア行動の維持・向上を図り、予防・自立への支援が理解できる。	1) 生活の自立への支援が実施できる。 (1) 症状・障害の程度に応じた日常生活への援助 (2) 闘病意欲の維持・対象の QOL 向上に向けた支援 (3) セルフケア行動の維持・向上に向けた支援 (4) 自己管理のための日常生活指導 (5) 生活習慣の見直しと修正に向けた支援	
4. 社会復帰に向けての支援が理解できる。	1) 社会復帰への準備と支援ができる。 (1) 対象に応じた生活指導ができる。 (2) 疾病・生活をコントロールするための家族への協力・調整 (3) 社会資源の提供 (4) 保健・医療・福祉チームとの連携・調整	・ 毎日 30 分のカンファレンスをおこない、グループでの学びの共有をする。
5. 人間ドッグ実習にて対象と関わり、健康にたいする考え方や成人期のライフスタイルの特徴が理解できる。	1) 人間ドッグ受健者から話を聞き、健康に対する認識について理解する。 (1) 日常生活の習慣や気を付けていること (2) 受健者を取り巻く環境（家庭・職場・人間関係） 2) 疾病の早期発見と予防法について理解する。 3) 今後の健康管理が今後の生活にどのような影響を与えるかを理解する。	・ 人間ドッグ実習 2 日間 ・ 受健者（18 歳以上 65 歳未満）とのかかわりから学ぶ。 ・ 2 日間カンファレンスを行い、グループでの学びを共有する。 ・ 実習最終日に最終評価をおこなう。

## 成人看護学臨地実習Ⅲ

目的：成人（老年）期の対象がその人らしい生き方をするため、全人的苦痛の緩和のための看護を実践できる能力を養う。

実習目標	実習内容	実習方法・留意事項
1. 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解することができる。	1) 対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 (1) 病態、症状の観察 (2) 精神的症状とそれに伴う苦痛 (3) 生体機能の変化に対する対象と家族の受け止め方 (4) QOLの視点からの基本的ニーズの充足状態 2) 対象を取り巻く家族に関心を寄せて家族へ及ぼす影響が理解できる。	(お寺での実習 2 日間) ・ 死生観 ・ ビハーラ ・ グリーフケア ・ 納棺体験 ・ コンパッション・フォーカスト・セラピー
2. その人らしい生き方について考えることができる。	1) 対象の意思を尊重し、その人らしく過ごせるよう支援する方法が理解できる。 (1) 対象のニーズに対する援助 (2) 死の受容過程に応じた対象と家族への援助 (3) 日常生活への援助 (4) 対象の意思決定支援の看護師の役割 (5) 緩和ケア病棟の特徴	(学内実習 2 日間) ・ グループ学習 ・ 緩和ケア ・ アドバンスケアプラン ・ リビングウィル ・ 事例を用いて「その人らしい生き方」について考える (病棟実習 8 日間) ・ 緩和ケア病棟 4 日間 成人（老年）期 65 歳以上の患者を受け持ってもよい ・ 終末期病棟 4 日間 見学実習
3. 全人的苦痛の緩和のための援助が理解できる。	1) 全人的苦痛への援助が理解できる。 (1) 身体的苦痛の緩和（ペインコントロール・症状に対する援助） (2) 社会的・精神的、霊的苦痛への援助 (3) 悪化防止・二次的障害予防への援助	・ 終末期病棟 4 日間 見学実習
4. 対象と家族へのかかわりのあり方を考えることができる。	1) 家族への調整と支援 (1) 対象と家族の苦痛を配慮したコミュニケーション技術 (2) 家族への働きかけ	
5. 生命の尊厳・自己の死生観について考えることができる。	1) 生命の尊厳について考える (1) QOLについて (2) 倫理について (3) 対象の意思、家族の意思 (4) インフォームドコンセントについて 2) 自己の死生観について考える。	・ 毎日 30 分のカンファレンスを行い、グループでの学びを共有する。 ・ 実習最終日に評価をおこなう。

## 小児看護学臨地実習(保育園)

目的:健康な子どもの成長発達の特徴が理解できる。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
14. 保育園の特徴が理解できる。	8) 保育園の環境や設備が理解できる。 (1) 設備 (2) 構造 (3) 日課 (4) 年間行事 (5) 職員構成	・ 構造や特徴、日課や行事、人員配置を学ぶ。
15. 子どもの成長発達に応じた日常生活の援助方法が理解できる。	2) 子どもの安全を守るために必要な環境について理解できる。 3) 形態的特徴が理解できる。 4) 身体生理の特徴が理解できる。 5) 感覚・運動機能が理解できる。 6) 知的・情緒機能が理解できる。 7) 社会的機能が理解できる。 8) 成長発達にあった遊びが理解できる。 9) 子どもにとっての遊びの必要性が理解できる。 10) コミュニケーションの方法を理解し、実施できる。 11) 基本的生活習慣が理解できる。 12) 自立へ向けての援助方法や援助の必要性が理解できる。 (1) 食事 (2) 排泄 (3) 活動 (4) 睡眠 (5) 清潔 (6) 衣服 13) プレパレーションが実施できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 起こりやすい事故とその対策について学ぶ。</li> <li>・ 自由遊び、その他の時間を通して子どもを観察し、成長発達を学ぶ。</li> <li>・ 自由遊び、その他の時間を通して子どもの反応を観察し、接し方などを学ぶ。</li> <li>・ 各クラスで子どもに対する生活面での援助について見学した後で見学した後できることは指導のもと、実施する。</li> <li>・ 季節や年齢に応じたテーマを決定する。</li> <li>・ 成長発達をふまえて企画書を作成する。</li> <li>・ プレパレーションを実施するために準備・調整する。</li> </ul>
16. 保育園を利用する子どもとその家族の特徴を知ることができる。	1) 子どもを取り巻く社会環境を知ることができる。 2) 子どもとその家族の思いや不安を知ることができる。 3) 子どもとその家族への援助の必要性を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者への接し方を観察し、子どもとその家族を取り巻く環境を考えられるようにする。</li> <li>・ 家族とのかかわり方や援助の必要性を学ぶ。</li> </ul>

## 小児看護学臨地実習（小児科外来）

目的:小児科外来の特徴を理解し、外来看護師の役割が理解できる。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
1. 小児科外来の特徴が理解できる。	1) 小児科外来の環境や設備が理解できる。 ・ 小児科外来の特徴的な環境 ・ 小児科外来の特徴的な設備 ・ 外来の週間予定	・ 小児科外来の構造や特徴、外来の週間予定、起こりやすい事故とその対策について学ぶ。 ・ 小児科外来の環境や整備の意味が考えられるようにする。
2. 健康障害をもつ子どもとその家族の特徴が理解できる。	1) 健康障害をもつ子どもとその家族の不安が理解できる。 2) 健康障害をもつ子どもとその家族の影響が理解できる。 3) 健康障害をもつ子どもとその家族の援助が理解できる。	・ 看護師が家族とかかわる場面を通して反応を観察し、接し方を学ぶ。 ・ 家族への援助の必要性を考えられるようにする。
3. 小児看護における基本技術が理解できる。	1) 乳児・幼児のコミュニケーションの方法が理解できる。 2) 乳児・幼児のバイタルサイン測定の方法が理解できる。 3) 乳児・幼児の身体計測の方法が理解できる。 (1) 身長 (2) 体重 (3) 頭囲 (4) 胸囲 4) 診察介助の方法が理解できる 5) 与薬方法が理解できる。 6) 検査・処置などの方法が理解できる。 (1) 採血 (2) 輸液 (3) 予防接種 (4) 吸入 (5) X線撮影 (6) 心電図 (7) 心エコー	・ 問診・診察・処置・乳幼児健診などを通して子どもの反応を観察し、接し方を学ぶ。 ・ バイタルサインの値や身体計測の結果を乳児・幼児の成長・発達と結びつけて、看護の必要性があるかどうか考えられるようにする。 ・ 診察時や乳幼児健診の看護師を実施している援助について見学した後できることは指導のもと、実施する。
4. 他部門との連携が理解できる。	1) 外来から病棟への連携の方法が理解できる。 2) 外来から家庭への連携方法が理解できる。 3) 小児科外来から他部門への連携の方法が理解できる。 4) 継続看護の必要性が理解できる。	・ 看護師が行う援助を観察する。 ・ 継続的に受診が必要かを考えられるようにする。 ・ 外来看護師の役割を学ぶ。

## 小児看護学臨地実習(発達障害児施設)

目的: 発達障害をもちながら生活する子どもとその家族の特徴が理解できる。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
1. 発達障害児施設の特徴が理解できる。	1) 発達障害児施設の環境や設備が理解できる。 (1) 環境 (2) 設備 (3) 日課 (4) 年間行事 (5) 職員構成 2) 発達障害があることで社会環境にどのような影響をあたえるかを考えることができる。 3) 施設の役割について考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構造や特徴、日課、起こりやすい事故とその対策について学ぶ。</li> <li>・ 発達障害児施設の環境や整備の意味が考えられるようにする。</li> <li>・ 施設の概要を学ぶ。</li> <li>・ 対象の背景を知ることによって現代社会の抱える問題点(児童虐待等)について考える。</li> </ul>
2. 発達障害をもつ子どもの成長発達にあわせた日常生活行動への援助が理解できる。	1) 発達障害があることで生活環境にどのような影響をあたえるかを考えることができる。 2) 発達障害があることで成長発達にどのような影響をあたえるかを考えることができる。 3) 施設における環境・食事・排泄・清潔の自立にむけての援助を考えることができる。 4) 活動と生活リズムを整える訓練の必要性が理解できる。 (1) 設定療育、日課、(休憩、睡眠、活動、学習) (2) 散歩、日光浴、レクリエーション (3) 移動動作、機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタッフの指導を受けながら援助できる部分は実施する。</li> <li>・ 生活リズムに合わせた援助のあり方を知り、援助を実施する。</li> </ul>
3. 家族を中心としたヒューマンネットワーク支援について考えることができる。	1) 対象をとりまく保育医療福祉チーム連携について考えることができる。 (1) 看護者の役割 (2) 看護者以外の療育チーム員の役割 2) 家族を支える保健福祉医療チームの連携について考えることができる。 (1) 家族の面会状況 (2) 家族への指導、家族参加 (3) 社会資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション受け、どのような保健医療福祉チームがあるかを理解する。</li> <li>※ 施設における看護職の役割、また社会における看護職の役割を考える。</li> </ul>

## 小児看護学臨地実習(重症心身障害児施設)

目的: 重症心身障害児の特徴を理解し、小児病棟の看護師の役割が理解できる。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
1. 重症心身障害児の特徴と入院生活が子どもの成長発達に及ぼす影響が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 障害があることで成長発達にどのような影響をあたえるかを考えることができる。</li> <li>2) 障害があることで社会環境にどのような影響をあたえるかを考えることができる。</li> <li>3) 障害があることで生活環境にどのような影響をあたえるかを考えることができる。</li> <li>4) 入院している子どもの身体的・知的特徴を考えることができる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院・病棟のオリエンテーションを受け、概要を理解する。</li> <li>・ 対象の背景を知ることによって現代社会の抱える問題点(児童虐待等)について考える。</li> </ul>
2. 成長発達に応じた日常生活援助が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの安全を守るために必要な環境について理解できる。</li> <li>2) 基本的な生活習慣が理解できる。</li> <li>3) 残存機能を活かした援助方法や援助の必要性が理解できる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 食事</li> <li>(2) 排泄</li> <li>(3) 活動</li> <li>(4) 睡眠</li> <li>(5) 清潔</li> <li>(6) 衣服</li> </ol> </li> <li>4) 活動と生活リズムを整える援助を考えることができる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 設定療育、日課、(休憩、睡眠、活動、学習)</li> <li>(2) 散歩、日光浴、レクリエーション</li> <li>(3) 移動動作、機能訓練</li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活リズムに合わせた援助のあり方を知り、援助を考える。</li> </ul>
3. 小児看護における基本技術が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーションの方法が理解できる。</li> <li>2) バイタルサイン測定の方法が理解できる。</li> <li>3) 診察介助の方法が理解できる。</li> <li>4) 与薬方法が理解できる。</li> <li>5) 検査・処置などの方法が理解できる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 採血</li> <li>(2) 輸液</li> <li>(3) 吸入</li> <li>(4) 吸引</li> <li>(5) 人工呼吸器</li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診察・処置・援助などを通して子どもの反応を観察し、コミュニケーション方法を学ぶ。</li> <li>・ バイタルサインの値や状態観察を通して看護の必要性を考える。</li> </ul>
4. 小児病棟の看護師の役割が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象をとりまく保育医療福祉チーム連携について理解できる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護者の役割</li> <li>(2) 看護者以外の療育チーム員の役割</li> </ol> </li> <li>2) 家族を支える保健福祉医療チームの連携について理解できる。               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 家族の面会状況</li> <li>(2) 家族への指導、家族参加</li> <li>(3) 社会資源</li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オリエンテーション受け、どのような保健医療福祉チームがあるかを理解する。</li> <li>※ 施設における看護職の役割、また社会における看護職の役割を考える。</li> </ul>



## 母性看護学臨地実習

目的：妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し、対象者および家族の持つニーズに応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
<p>1. 妊娠・分娩・産褥の経過を理解し、対象者の特徴と看護が理解できる。</p>	<p>&lt;妊娠期&gt;</p> <p>1) 外来での妊婦との関わりから妊娠による母体の変化、胎児の発育について理解する。</p> <p>2) 妊婦との関わりを通して妊娠に伴う心理的变化について考える。</p> <p>&lt;分娩期&gt;</p> <p>3) 対象の分娩に立ち会い分娩各期の看護を見学する。</p> <p>4) 分娩を通して産婦の心理的变化について考える。</p> <p>&lt;産褥期&gt;</p> <p>5) 分娩期から産褥期の母体の変化(退行性、進行性)について理解する。</p> <p>6) 褥婦との関わりを通して褥婦の心理的变化について考える。</p>	<p>4日間(学内実習)</p> <p>(1日目～2日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における経過や生理的特徴の知識の確認(講義形式で質疑応答を繰り返し知識の蓄積度を確認する)</li> </ul> <p>(3日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児のバイタル測定の方法・新生児の抱っこ仕方・オムツの交換・寝衣の着脱・沐浴の方法・計測・保育器の取り扱い方を実践する</li> </ul> <p>(4日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期についての知識をペーパーテストを実施し理解度の確認をする</li> </ul>
<p>2. 妊婦・産婦・褥婦に必要な援助が理解できる。</p>	<p>&lt;妊娠期&gt;</p> <p>1) 妊婦健康診査の目的を理解し、一部実施する。</p> <p>(1) 検尿、体重・血圧・腹囲・子宮底測定、浮腫、マイナートラブルの有無の観察をする。</p> <p>(2) 胎児心音、胎動の観察をする。</p> <p>(3) 超音波による胎児診断の見学をする。</p> <p>(4) NSTの見学、共同実施をする。</p> <p>&lt;分娩期&gt;</p> <p>2) 分娩各期の看護を見学し一部実施する。</p> <p>(1) 分娩各期の経過観察をする。</p> <p>(2) 分娩経過に応じた援助を理解する。 (体位、休息、産痛緩和、家族への声かけ)</p> <p>(3) 胎児付属物の観察をする。</p> <p>&lt;産褥期&gt;</p> <p>3) 正常な褥婦の経過観察をする。</p> <p>(1) 産褥日数とともに変化する子宮、乳房の状態を観察する。</p> <p>(2) 褥婦の心理面を観察する。</p> <p>4) 産褥経過を順調に経過させる援助を見学し一部実施する。</p> <p>(1) 復古現象を促す援助を見学する。 早期離床、産褥体操、子宮底輪状マッサージ、感染予防、</p> <p>(2) 乳汁分泌を促す援助を見学する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊娠、分娩、産褥の生理的経過、援助技術については事前学習しておく。</li> <li>・ 妊娠期に関しては外来での関わりとする。(許可の得られた妊婦)</li> <li>1人の妊婦(できれば初産)と関わり会話や観察、測定、記録より妊娠経過が順調か否か判断し、また、心理についても考察する。</li> <li>・ 健診に最初から最後まで付き添う。</li> <li>・ 分娩期に関しては分娩が近い妊婦を選び、了承が得られれば分娩から産褥と受け持たせていただく。</li> <li>・ 分娩各期に関しては</li> </ul>

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
	<p>SMC 乳房マッサージ、直接授乳、搾乳</p> <p>(3) 感染予防の援助を見学する。 悪露交換、利尿後消毒、乳房の手当て</p>	<p>見学が主になるが、ただ見学するのではなく、産婦の思いやニーズは何かを考え、できるのであれば指導者とともに援助を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産褥期に関しては、受け持ち患者の実際の経過を追うことで生理的変化など知識と結びつけ、看護を指導者と共に実践していく。(看護過程の展開)</li> <li>・ 産褥期は事前に正常の経過を予測したスタンダードプランを立案し、それに沿って看護を理解する。</li> </ul>
<p>3. 妊婦・産婦・褥婦および家族に必要な保健指導の重要性とその方法が理解できる。</p> <p>4. 新生児の生理的特徴と胎外生活適応の看護が理解できる。</p> <p>5. 新生児に必要な基本的な日常生活援助が理解でき一部実施できる。</p>	<p>&lt;妊娠期&gt;</p> <p>1) 妊娠各期の保健指導を見学し、自主的な健康管理にむけての援助を学ぶ。</p> <p>(1) 妊娠中の生活指導を見学する。</p> <p>(2) 出産・育児の準備教育を見学する。</p> <p>&lt;産褥期&gt;</p> <p>2) 産褥期の保健指導の実際を見学する。</p> <p>(1) 調乳、育児、沐浴、退院指導等を見学する。</p> <p>1) 新生児の生理的特徴を理解する。 生理的体重減少、生理的黄疸、便の性状、成熟徴候、反射、臍、姿勢、哺乳状態など</p> <p>2) 胎外生活適応の看護を理解する。 保温、感染予防、愛護、呼吸の確立、栄養、異常の早期発見</p> <p>1) 生後日数とともに変化する生理的特徴の観察をする。</p> <p>(1) バイタルサイン測定を実施する。</p> <p>(2) 全身の観察をする。</p> <p>(3) 生理的体重減少を知る。</p> <p>(4) 生理的黄疸の観察をする。</p> <p>(5) 便の性状の変化を観察する。</p> <p>(6) 哺乳状態の観察をする。</p> <p>2) 日常生活の援助を見学し、一部実施する。</p> <p>(1) 環境の調整をする。 (体温保持、感染予防、事故防止)</p> <p>(2) 清潔保持の援助をする。 (沐浴、臍処置、更衣)</p> <p>(3) 排泄の援助をする。 (おむつ交換、排泄物の観察)</p> <p>(4) 栄養に関する援助をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各期の対象の個別性は経過によって考える。</li> </ul>

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
<p>6. 母性看護における継続看護の重要性を認識し、保健医療チームの連携と社会資源の活用方法が理解できる。</p> <p>7. 母性・父性意識を高揚させ、生命の尊厳に対する価値観を養い、自己の看護観を高めることができる。</p>	<p>(哺乳、排気、哺乳量の適否の判断)</p> <p>1) 母子手帳の活用方法を知る。 2) 妊娠、出産に関する諸制度を理解する。</p> <p>1) 分娩見学や看護の実践、カンファレンスを通して「母になること」「父になること」「家族とは」について考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各援助は見学の後、指導のもと共同実施する。</li> <li>・ 母子関係法規を事前学習しておく。</li> <li>・ 母性、父性に関する文献の活用を努める。</li> <li>・ 生命の誕生の瞬間に立ち会うことによって生命の神秘や尊厳について考える。</li> </ul>

## 看護の統合と実践実習

目的：看護方式を実際に体験することにより、看護の判断能力・実践能力・応用能力を養う。

臨床実践に近い形で看護を体験し、看護職としての役割を明確にできる。

実 習 目 標	実 習 内 容	実習方法・留意事項
1. 対象を複数受持ち、看護実践を通して、看護の判断能力や応用能力について学ぶことができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象を複数（2～4名程度）受持ち、それぞれの情報収集を行い問題点とその根拠を明確にする。</li> <li>2) その日の治療や処置・検査などから看護の優先順位を決定する。</li> <li>3) 看護の判断や応用の必要な時には、対象の担当看護師か部屋持ち看護師に報告・連絡・相談をする。</li> <li>4) 対象に必要な観察や看護を実施し、その報告する。</li> <li>5) 対象に必要な日常生活援助を、安全安楽を考慮し実施する。</li> <li>6) 実施した援助を振り返り計画の評価・修正をする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象を複数（四人部屋）受持ち、実習中対象の担当看護師か部屋持ち看護師と行動を共にし、看護の優先順位やその実施を学ぶ。</li> <li>・ 援助を実施していく中で判断や応用を実践していく。</li> <li>・ 複数の対象に行われている治療や処置・検査は事前学習をする。</li> <li>・ 簡潔に専門用語を使った報告ができる。</li> </ul>
2. チームの一員としての役割や責任が理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) チームの中に入り、実践することによりチームの一員としての役割や責任を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 一部屋の受け持ちとしての動き</li> <li>(2) チームの中での動き</li> <li>(3) 病棟全体の中での動き など</li> </ol> </li> <li>2) チームカンファレンスに参加させていただき自分の意見が言える。</li> <li>3) 転科・転棟があれば同行し、できれば申し送りに参加し理解する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受け持ち患者の援助や、チームの中での動きをとおしてリーダーに報告・連絡・相談をすることでチームの一員としての役割と責任を知る。</li> </ul>
3. 看護管理者およびチームリーダーの役割や責任について知ることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病院組織における看護管理者の日常業務について知ることができる。</li> <li>2) 看護チームリーダーの日常業務について知ることができる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 看護部責任者のシャドウイングを行い、業務の実際を見学する。</li> <li>・ チームリーダーのシャドウイングを行い、業務の調整、医師、他部門との連携やスタッフ対応などの業務の実際を見学する。</li> </ul>
4. 夜間実習により、夜間における対象の生活や看護師の関わりを知ることができる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 統合実習中受け持っている対象を中心に夜間に必要な観察や看護を理解する。</li> <li>2) 日中見られない対象の夜間の生活を知る。</li> <li>3) 夜間の対象の治療・処置を知る。</li> <li>4) 夜間の看護師の役割や責任を知る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日中と同じ部屋の対象に対し指導者と共に行っていく。（実習期間中後半に1回）</li> <li>・ 援助を行っていく中で対象の違う側面を知り、対象理解に繋げる。</li> <li>・ 食事介助、排泄介助、イブニングケア、消灯、巡回、起床、採血など</li> <li>・ 指導者と共に行動することにより、夜間の看護師の動きや役割・責任を理解する。</li> </ul>

